

経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

令和2年2月21日(金)午後2時 58 分～午後4時 11 分(9階 909 会議室)

○出席委員(8名)

| | |
|------|-------|
| 委員 長 | 二階堂武文 |
| 副委員長 | 佐々木 優 |
| 委 員 | 高木 直人 |
| 委 員 | 川又 康彦 |
| 委 員 | 石山 波恵 |
| 委 員 | 阿部 亨 |
| 委 員 | 小松 良行 |
| 委 員 | 山岸 清 |

○欠席委員(なし)

○市長等部局出席者(なし)

○議 題

「古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査」

- (1) 行政視察意見開陳のまとめについて
- (2) その他

午後 2 時58分 開 議

(二階堂武文委員長) それでは、ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりとなります。

古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査を議題といたします。

初めに、行政視察意見開陳のまとめについてを議題といたします。

前回の2月7日に行政視察についての意見開陳を行い、委員の皆様から様々なご意見を頂きました。本日は、それらに基づき、行政視察のまとめを行いたいと思います。

まずは、A3の資料、行政視察意見開陳の概要と書かれた資料を御覧ください。こちらは、前回の委員会で皆様からあった発言の内容を速記録風にまとめたものとなっております。それぞれ3つの視察先ごとに資料を分けてありますので、まずは内容の確認を含め、黙読の時間を10分ほどお取りしたいと思います。ご自身の発言や他の委員の発言など改めて資料を御覧いただき、発言内容をご確認いただければと思います。この時計で3時10分までということで黙読をお願いいたします。

【資料黙読】

(二階堂武文委員長) それでは、時間になりましたので、発言内容等問題がなければ次に進みたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、こういった意見を踏まえてということで、次にA4の経済民生常任委員会行政視察のまとめと書かれた資料を御覧ください。まず、資料の1、意見開陳も踏まえた各行政視察先でのポイントを御覧ください。こちらの四角の枠の中には、各視察先で聴取してきたポイントを整理し、掲載しております。

一番上の(1)、浜松市からですが、記載の3点がポイントではないかと整理しております。まず、1点、①です。楽器産業などの企業が多数立地する企業城下町としての特性を背景として、強力に音楽によるまちづくりが進められており、様々な実績を残しているということ。②としまして、昭和56年から音楽のまちとしての取組を始め、40年近く継続。地道に長く取り組んでいく中で、市民に音楽文化が根つき、音楽のまちを支える人材が数多く育ち、都市ブランドを形成するまでに至ったということ。そして、3点目ですが、音楽のまちを通しての市の将来像を明確に文化振興ビジョンに示して取り組むということで、行政や民間も目標に向かって進むことができているということです。以上の点を浜松市の取組のポイントとして整理いたしました。

次に、(2)、岡崎市ですが、こちら、まず①ですが、一見するとマイナーなイメージを持つジャズという音楽にスポットを当てて、寄贈されたコレクションを死蔵させることなくまちづくりに活用しており、内田修ジャズコレクションの展示の見せ方や活用したイベント企画等も大変工夫されていたということ。2点目としまして、小学校への出前講座による子供たちへの普及啓発事業は、小さいうちからプロの演奏に触れ、子供たちの感性も豊かになる大変貴重な経験であり、その後の市民へのジャズの浸透にも大変効果のある取組であるということ。3点目として、NHK朝ドラ、純情きらりの放映によりジャズのまちの岡崎の取組に追い風になり、その後の岡崎ジャズストリートなどの市民主体の大きなイベントにもつながっていった。NHKのドラマ放映を上手にまちづくりに生かすことができているということ。以上の3点を岡崎市の取組のポイントとして整理いたしました。

そして最後に、恵那市です。(3)になります。①として、半分、青い。放映に合わせて具体的なアクションプログラムを策定し、様々な事業に取り組んできたということ。②として、ドラマ放映の内容や反響を見ながらの市の対応のスタートであったため、後手に回った感があるということ。ただし、これはドラマの放映内容も事前に知ることができない、実際にどの商品が売れるか分からないなど手探りの状況もあり、前もった事前準備が整えにくい部分もあるということが背景にあることも認識できたと感じております。最後に、③、朝ドラの経験を踏まえ、大河ドラマ、麒麟がくるでは朝ドラの際に準備した観光インフラ、駐車場とか休憩所も活用しながら、パンフレット、商品開発等早めに行けるものは準備を進めているということ。以上の点を恵那市の取組のポイントとして整理いたし

ました。

まずは、ここまでのところで何かございますでしょうか。

(川又康彦委員) 恵那市についての①の具体的なアクションプログラムという表現になっているのですけれども、意見開陳の概要でアクションプランという表現が使われていて、これどちらかに統一したほうがいいのかという気がしたのですが。

(二階堂武文委員長) 資料はどうでしたか。頂いた資料に書いてあったのは。

(川又康彦委員) 結果報告書だとアクションプラン結果報告書という感じになっているのですけれども。1個1個はプログラムというのかもしれないですけれども。

(二階堂武文委員長) 頂いた資料には。

【「アクションプラン」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) プランですか。プランでいいですか、統一して。

【「半分、青い。活用事業アクションプランになっているな。アクションプラン結果報告書」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) ほかございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、こういったポイントも踏まえて、2の委員会のまとめを確認していきたいと思います。委員会としては、これら3つの行政視察先で学んできたことを受けて、資料に記載の3点で行政視察をまとめてはどうかと考えております。

まず、①としまして、古関裕而氏を生かしたまちづくりを通して、将来どんなまちになりたいのかを明確にするためにも、文化振興ビジョンのようなものに古関裕而氏に関する今後の取組の方向性や目標を明記し、行政と市民が一体となって取り組んでいく必要があるという点。

次に、②として、音楽や文化を市民に根づかせるには長期的なビジョンで取り組む必要がある。そのためにも次の世代を担う子供たちや若い世代への浸透に向けた取組と人材育成、古関裕而記念館の活用は必須であるという点。

最後に、③として、これは繰り返しになってしまうかもしれませんが、NHKの朝ドラ放映の効果が改めて大きいものであるということが分かった点。この放映のチャンスを逃がさず次につなげていく必要があるという点になります。

以上のとおりで整理してみましたが、いかがでしょうか。

(石山波恵委員) 3番のところなのですけれども、放映のチャンスを逃がさず次につなげていく、この次という文言なのですけれども、このチャンスを逃さずということは結局この放映をきっかけにより福島を盛り上げていくということだと思えるのですけれども、その盛り上げ方はやはり市民に対して古関裕而氏を知ってもらうと同時に、市民が盛り上がるということと、あとは人と人とのつながりが希薄になっている今だからこそ、福島を訪れた人がもう一回来たいなと思ってもらえるような交流

人口の拡大というところも含めているという形の認識だと思うのですけれども、そういうことですよ。次というと……。

(二階堂武文委員長) 交流人口の拡大であり、この間言ってきましたけれども、人材の育成とか、50年後、100年後につなげていくと。

(石山波恵委員) ということの意味と捉えてよろしいということですよ。

(二階堂武文委員長) そうです。ちょっと幅があらうかと思います。

(石山波恵委員) リピーターを増やしていく努力をやっぱりしていくということも大事。

(二階堂武文委員長) そうですね。人材の育成とか、実際的な経済効果の問題とか何かも含めて。

(川又康彦委員) 今のに関連してなのですけれども、3番について、委員長報告の時期とも少し絡むのですけれども、今委員おっしゃったように多分放映が終わるときにやるということで、それから次にどうするかという部分への提言だと思うのです。その際にそれから来る人というのは、アニメ用語みたいになってしまいますけれども、聖地巡礼とか、そういった形でいわれのあるところに来るといふ部分なのかなという気がしていて、行政視察終わってからですけれども、放映の中で川俣銀行の描写が出演者の発表なども含めて行われたことなんかもあって、川俣結構今盛り上がっているみたいなのです。何を言いたいかというと、恵那市のほうでもこちらの③のほうで麒麟がくるのところで、岐阜県内のほかの市のドラマ館なんかも含めた連携みたいな部分を比較的模索している動きなんかあったのかなという気がしてまして、聖地巡礼という部分でも、福島残念ながらそれほどメッカになる場所があまりないという部分を考えて、例えば川俣とか、出演者の中で大分比率の高い伊藤さんがいる本宮とか、そういった福島が連携している地域とも絡めるというような内容に持っていくと幅が広がっていくのかなと思った点が1つ。

もう一つ、これは別件ですけれども、①のほうで文化振興ビジョンというつくり方ありますけれども、今度次年度から第6次の総合計画という中で、将来福島が目指すまちというところでもかなりエールに傾いた表現をされているようなものもせつかくあるので、その中にどういうふうに盛り込んでいくのかということまで踏み込んで提言を出してもいいのかなという気がしたので、その2点についてご検討いただければなと思いますので、よろしく願いいたします。

(二階堂武文委員長) 今川又委員のほうから発言ありましたけれども、皆さんのご意見なんかいかがですか。

【「川又君にじゃなくてね。川又君の意見じゃないでしょう。みんなそれぞれ意見言っているんでしょ」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) 川又さんの。私もエール終わった後のことを考えたときに、本当に、先ほど石山委員のほうからちょっとご意見ございましたが、聖地巡礼的な、後追的に見てみたいということで福島なりを訪れていただける方もいるでしょうし、それ以降、三浦先生のときにお話ありましたような形で、これをきっかけとして古関裕而さんの知名度が全国的に、場合によっては世界にもまた

浸透していく中で、それをベースにして若手の作曲家とかを育成するようなコンクールを企画していくとか、それによって新たな福島を訪れてくる人たちをつくるとか、先の持っていき方は本当にこちらにもまた広く捉えていかななくてはならないことでもあるのかなというところでもあります。今の時点でどこまで委員長報告でその広がりやをどう表現していくかというところはちょっとあったものですから、そこは正副のほうでも正副の打合せとか何かではいろいろ意見を言いながら、とにかく1枚のぴらに一応まとめてというところで今回はおりました。

(小松良行委員) 着地点の中で、それは当然委員長報告としてまとめの中ではそうなのですが、今回は行政視察のまとめの中ですから、委員会のまとめ、2番のほう、やはりお土産がなくて困ったというのは今現在でも聞こえてくる声で、今からこうした来訪者、交流人口の増加に際し、今ある名物にブラッシュアップをかけてPR、販売するというのも、あるいはこの機会に新たな商品開発に向かっても、他市の事例によれば成功を収めている、あるいは今になっても半分青いプリンでしたっけ、非常に売れているというふうなことを聞くにつけ、まだまだ遅くはないということで、そうした恵那市での取組、特に商品開発などといったものについても、委員長、今回の行政視察のまとめの中では加えていただいたほうがいいのかというふうに思ったりしたのですけれども。

以上です。

(二階堂武文委員長) あくまで行政視察のまとめというレベル、現時点でのまとめですので、今本当に福島商工会議所なんかも補助金をつけたりなんかでいろいろ開発で動かれていますので。ただ、視察のまとめの中には聞いてきたことということで、おっしゃるとおりだと思います。

(山岸 清委員) これがまとめだということなのだけれども、委員長報告、最終的な報告はいつだったかな。

(二階堂武文委員長) その辺もこの間正副でも打合せしていることありますから、後ほど触れさせていただきます。今回は、この部分については一応視察のまとめというレベルで。よろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) では、今ご意見、小松委員、川又委員のほうからも頂戴しましたから、そこも含めた形で視察の報告をちょっと手直しするところは直しながらやらさせていただきます。

では次に、その他を議題ということでしたいと思います。

それで、ここから先につきましては、今山岸委員のほうからお話いただいたことに関わってくるのですが、年度が替わってから4月以降の調査の進め方について近いうちに協議したいと考えておりますが、現時点での正副委員長の考えを、まずは案の案という段階ではありますが、口頭で少しお話をさせていただければと思います。

今考えておりますのは、現時点で当然、先ほど商工会議所の話も出ましたし、皆さんのほうにエール通信、事務局のほうでボックスに、御覧いただいていたか。それで、実はこの資料に添付してあった資料……。

【「進捗状況ですね」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) そうです。これ目通されました。これまた福島市が一丸となって今回、ただこのスケジュールは12月末段階のものなのです。それで、最新のやつ作ったのですかと先ほど聞きに行きましたら、最新のやつはちょっと作ってなくて、個別にそれぞれの商工会議所なり福島市でさらに具体的に行動計画案をつくってやってはおりますと。ただ、こういうふうにはまとめていませんということでしたので、一応参考までにお配りしました。

それで、何が言いたかったかという、3月下旬からのエールスタートに合わせて、行政当局も商工会議所等も今準備計画を具体化するために様々に動いている、各方面が現在進行中だという状況が片一方にあります。今後につきましては、正副の案の案という段階なのですが、大きく今後2つの調査が委員長報告をするにあたって必要ではないかというふうに考えております。

まず、1つは当局説明です。昨年12月の取組状況などを確認するため、1度当局説明を実施しているところですが、改めて年度が替わって実際にエールが放映になってからの状況、例えばドラマ放映の反響や観光客受入れの状況、NHKとの連携、今後の取組予定などを確認するために、5月末あたりに商工観光部と市民・文化スポーツ部をお呼びして、2回目の当局説明を実施してはどうかということでございます。

もう一つは、現地調査の実施でございます。こちらは、6月下旬から7月上旬あたりに、リニューアルしました古関裕而記念館や古関裕而ストリートなど整備後の状況について、また観光客等の反響等もあろうかとは思いますが、現地調査を行い、委員長報告のまとめに入ってはどうかという案でございます。

今物事がすごく動き出そうとしている、また4月になれば動き出すという流動的な中で、委員長報告をきちっと的を絞った、的を外さないようにするためにも、やはりその辺も現実的な動き出した状況を踏まえながらまとめに入ってはどうかというふうに正副では考えておりました。

それで、7月、委員長報告のまとめがある程度議論が進めば、次の調査テーマについても同時並行的に検討を実施していくことも可能になってくるかというふうに思っております。この辺で他委員会との遅れというか、出だしのずれみたいなのは同時並行的にやっていく中で解消されていくのかなという部分もちょっと話の中で出ました。ということで、後期の調査にも遅れが出ないように進めながら、委員長報告のまとめをより緻密に行っていければというふうに考えております。

このような次年度の大まかな調査の流れにつきまして、委員の皆様の方から何かご意見がありませんでしょうか。

(山岸 清委員) 私は、せっかくこれ視察行ってきて、一応3か所見てきて、それなりに気づいたことあるのだから、それは報告して、当局が主体になるけれども、商工会議所さんでも何でもそれは聞いてもらえばいいのだけれども、お土産の問題とか、駐車場とかあったわけだから、早く言うておくべきだよ。それでないと、大体うんと詳しくやってからあれだなんていうより、今度のコロナウ

イルスと同じだよ。早く対策しないで、よく原因分かってから手当て方法を研究しましたというときは2人も3人も死んでいるのだから、あのとき俺変だな、クルーズなんて、これ駄目だよ。高い、それこそ50万円も100万円もかけて、要するに金ある60代とか、俺金ない70代表だけれども、そういう人が行っているわけだ。それが全部無料だといっても監獄に入れられたようだよ。金払って刑務所に入る。だから、早くこれは委員会として気がついたことは当局に提言すべきですよと私は思っているの。それでないと何ぼやっても、せっかくだいい委員長報告やっても、それは時既に遅しですよなんていったら何とも対策取りようないのだよ。だって、エールは半年なのだから。

(小松良行委員) これは視察中も申し上げていたかと思うのですけれども、ただいま山岸委員がおっしゃるとおり、ある程度課題というものはもう見えてきているのだなということであれば、視察までの課題整理において委員長報告可能なものについては先出しをしていくと、そしてエールが始まる前、それからエールが終わった後ということで、最終的には9月のめどというのものもありなのかもしれませんが、ただいま山岸委員の言われるのは非常にごもつともであって、今から3月定例会議に果たして委員長報告どの程度までのをまとめられるかというのは甚だ厳しさは否めませんが、山岸委員のご意見に賛同するものであり、善処方、これから委員長、副委員長どう判断されるか分かりませんが、一応私も同意見であります。

(山岸 清委員) 毎回言っているけれども、メロディーバス、こういう終わってから出すのだから。俺は、そんなことよりも市内バスだったらばテープレコーダーで回して、六甲おろしでも甲子園の歌でも、あとは福商の青春歌でもいいから、ただあれは面倒くさいなと思うのだ。俺市内バスに乗っていて、次は市役所前なんて言っているうちにまた別のメロディーになる、これは市内バスは向かないななんて思うのだけれども、ただ福島交通も観光あるでしょう。定期観光とか、あるいは貸切りバスで行く。そのときはテープ寄附してもいいから、これ流してくださいよということやる。だから、メロディーバスなんて終わってからやるのだから、本当にこれ準備悪いなと思って。

(石山波恵委員) ラッピングバスが先ほどのエールのところに書いてあったのですけれども、3月の28日から500円という、一応案みたいな形ですけれども、書いてありました。福島駅から古関裕而記念館まで行って、帰りは上町のところの古関裕而ストリートのところで降ろすのと駅前降ろすのというので往復で500円という設定を見たので、そちらのバスはもう既に、メロディーバスではないですけれども、ラッピングバスは動くような感じにそちらのエールで私見たのですけれども、先ほど小松委員おっしゃられたように、放送終わってからのこれからの福島を考えるのも大事ですけれども、放送中にいうのもやっぱり一つの視野に入れて、放送している間に来てくれたお客様をいかに快適に過ごしてもらえるかということが、例えば駐車場の問題でもいろいろな問題が出てきているわけなので、早く提案してあげて、視察の云々の完璧な意見を出すということではなく、やっぱり今問題点もありますけれども、それを早く提示するということが、9月というあれではなくて、もうちょっと前倒ししても、委員長の気持ちも分かりますけれども、早くやったほうがいいかなという思いもあります。

(二階堂武文委員長) 一応今駐車場の話も出ましたけれども、この間当局のほうから古関シンフォニーですか、アクションプランのいろいろこういったことをやりますよということで、今エール通信、12月に出了たやつについては、商工会議所とか各団体さんもいろいろこういった計画で進めていますよという計画案をやっています。それで、具体的に今日時点での計画を頂いてきたわけではなかったのですけれども、さっきも商工観光部行ってちょこっとだけ話聞いたのですけれども、やはり皆さん気合入れて、今回のエールにすごく期待をしていて、いろんな準備も進めているという中で、今2月21日で、3月定例会議、3月ということで直前になります。皆さん捉え方、いろんな組織運営とか何かされていたり、そのの長をされている方もいらっしゃいますから、自分たちが組織を挙げて、市長の陣頭指揮の下に練りに練って策を講じて、今予算執行しようと、もう一部予算執行してフラッグとか何か駅前通りとかやっていますが、今具体的にアクションを起こしつつある中で、議会として、委員会として、言葉ちょっと選ばないと大変失礼になりますから、今動き出しつつある中で、私どもから動きにプラスに、逆に現場を混乱させるような物言いとかが何かになってしまうと、それはこれからやろうとしているところに冷や水かけるようなことをやっても厳しいなど。

(山岸 清委員) そんな、委員長、そういうこと言ったら全然いい意見も出ていかないよ。そして、例えばこっちで案つくったら当局にどれか迷惑になることあるかいと聞けばいいのだから。これはカットしてくださいと言えばカットすればいいのだよ。それ最初からそっちがどんなこと考えているかわからない、そっちの腹探りながらなんてやっていくこと、こっちの意見ばんと、議会は視察してきて、見てきて、実際こうだったというのがあるわけだから、その結果を言っているのだから。ただ、当局は何でも初めてのことなのだから、このことは、初めてのことなのだから、意見を、だからそれ俺らが言ったとおりにやったら、これは大したものだよ。ならなくてもいいけれども、議会として意見を言うのに、後から終わってから言ったら何にもならないだろうということなのだ。

(二階堂武文委員長) 終わってから言うわけではなくて、例えば具体的なアクションプランでこういったことをやったとかと資料頂いてきましたけれども、私的には、私どもが集めてきた資料のレベルのことは当局のアクションプランの中に既に吸収されているレベルのものなのかなと。

(山岸 清委員) だから、それを後押しするだけでしょ。何でそんな入っているやつ言って悪いの。

(二階堂武文委員長) いや、悪くはないですけども……。

(山岸 清委員) それ言われると当局嫌がるの。

(二階堂武文委員長) 私どもの限られた時間とエネルギーをどこに注ぐことが市勢伸展に役に立つのかと考えたときに、時間的なものとか……。

(山岸 清委員) 違う。だから、俺らが気がついたことだけ言えばいいのだよ。

(二階堂武文委員長) できますか。やるとなれば相当ハードになりますよ、これ。

(山岸 清委員) ハードにも何にもならないでしょう。

(二階堂武文委員長) 山岸さん、委員会に出てこれますかなんて言ったら失礼ですけども。

(山岸 清委員) 俺は来るよ、来いと言えよ。風邪引かない限り。駐車場のこととかお土産、お土産だってこの間古関裕而さんが食べたパンだかまんじゅうだか作ったなんて、ああいうのいいことでしょう。

(二階堂武文委員長) そういうことは、既に、今朝も福島市のすし組合の組合長さんから電話ちょっとあって、古関裕而さんがいなりずし好きだったから、古関裕而さんののぼりをすし組合に加盟の11店舗でつけませんかみたいのを、知り合いの方でしたから、ありましたけれども、そういうのを商工会議所中心になって動いているわけです。だから、そういったことで、それは私の見方で、皆さんの見方もそれぞれありますから、そこは調整していかないと委員会として駄目なのでしょうけれども。

(小松良行委員) それぞれ意見を言っているのであって、まずそれぞれの委員から意見をしっかり聞いていただきたいと思います。9月に固執することなく、6月も議会あるわけですから、確かに先ほど話の後段の中で私も申しあげましたけれども、古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査をしていったわけで、ある程度この視察までの間でこうした取りまとめが行われるものだけでも、それは山岸委員がおっしゃるとおり、間に合わせる努力をする中では一定程度中間報告というのは可能なのであろうし、また最終的な取りまとめをはなから9月ということでお決めになっていらっしゃるのかなのか分からないですけれども、放映中にある程度、私は終わってからのにぎわいの創出というのでは甚だこれ順序がというか、せめて放映中に報告をすべきでないのか。また、この後の新たな調査項目を決めてスタートするにあたってもそうなのですけれども、9月で報告終わってから、先ほどの委員長のお話では、まとめながら次の調査項目を決めていったら影響はないというようなお話もありましたけれども、本来の流れですと、後ろにあまり持っていくと次の調査への影響も懸念されることから、少しでも早く、9月という時期にこだわらず、だからといって3月の中間報告が不可能であれば、むしろ6月ぐらいにしっかり精度を高めて、今この後の当局説明を受ける時期あるいは現地視察、といっても市内ですから、前倒しして何とか6月定例会議には委員長報告を行えるようにまとめられたらいかがでしょうか。私の意見です。

(佐々木優委員) これまでこのテーマをどういうふうに締めくくるとかという話を全体の中で進めてきたと思うのです。それで、当初は6月かなという声もあったと思うのですけれども、エールの放映中の途中の提言でいいのかなとかという話もこの中で協議をしたと思うのです。やっぱり終わったときのほうがタイミングとしては、その後のにぎわいづくりということに対しての提言はそっちのタイミングのほうがいいのではないかとということで、9月かなということである程度話がまとまってきたと思うのです。ただ、今お話あったように途中でいいのではないかとという声が上がったということは、それはそれで協議をすればいいことなのかなというふうに思うのですけれども、これまでの流れを一旦皆さんで踏まえて、本当に途中のエールの放映中の提言でいいのかなとかいうことをやっぱり考えていくべきかなと。それでも早いほうがいいよねとなれば、それは当然6月でもいいのかなというふうに思うので、全体的な見通しとかをちょっと一旦落ち着いて検討してはどうかなと思います。

(川又康彦委員) 私も中間報告と9月末のという2段階がいいのかなとは思いますが、これまで委員長、副委員長をはじめ9月でそれからの福島市全体のまちづくりの中の提言という、在り方としてという形でまとまってきたのも実際のところなのだと思います。ただ、それはあくまで視察に行く前の話で、実際視察行ってきた段階で、浜松、恵那、岡崎というところに行ってきた中で、この視察を生かした提言というのを考えると、特に恵那については終わってからどういったことを恵那から福島市に対して、よりよくなるために何かそのように言えることが果たしてあるのかなというのを個人的には非常に強く感じます。せっかく行ったものについては、できるだけ当局のほうにいい形でフィードバックしてあげたいという思いも個人的には非常に強く感じるので、なかなか大変な部分だとは思いますが、特に3月のというふうになってしまうと、これは物理的にも難しいと思いますし、そのところは提言の内容も含めて、終わってからやるのと途中でやるのというのは、視察行った先のことを考えると内容が大分違ってくると思うのです。そこについてももう一度時期的なことも含めて委員会の中で協議していく必要があるのかなとは感じます。

(阿部 亨委員) 委員会のまとめの先ほど③に出ていたように、次につなげていく必要があると、先ほど出た交流人口の拡大とか、人材育成、イベント、コンクールの開催とか、そういう部分は最後終わった後には十分できる部分ではあると思います。先ほど来お話出ている今できることということですか、今すぐできること、そういうことに関しては確かにタイムリーというのはやっぱりあるのかなと思うので、できる部分だけでもするという事はやっぱりしたほうがいいのかかなんては思います。最終的なまとめの9月でもいいです。先ほど言ったような次につなげていくこと等はまとめてするよな。そんなに何でもかんでも早くがっちがちに全部やるという形でなくても、できる部分だけでも提言して行って、すぐ意見をどんどん申し上げていくというのは、そのほうがやっぱりいいのではないのかなとは思いました。

以上です。

(高木直人委員) 私もやはり恵那市を視察したときの朝ドラ始まってから後手に回ったというのが非常に気になってしょうがなかったのです。果たして福島市は同じ轍を踏まないで済むのだろうかというか。ですので、終わってからではなくて、実際ドラマが始まったらやはり観光客というか、本当にどれだけ来るかは全く想像が付きませんが、ただ明らかに放映の効果というものは出てくると思いますので、特に心配な例えば駐車場の問題でありますとか、あとは受入れの、先ほどメロディーバスももっと早くできれば、放映中に町なか走っていれば、これほど効果的なものはなかったのではないかなと思うのですけれども、ですので今様々各商工会議所とか部局のほうでいろんな手を打っていただいているらっしゃるとは聞いていましたけれども、その辺の現状も確認した上で、なおかつ視察先ではこうでしたよというか、そういった駐車場の問題とか、あとお土産の問題とか、休憩所の問題とか、受入れの。そういったところを我々のほうから、可能な範囲でいいと思うのですけれども、伝えられるものであればいち早く伝えて行って、本当に早めに対応ができるような形を取っていくこ

とがやはり視察した目的にもかなってくるのかなというふうに思います。

以上です。

(二階堂武文委員長) ほか皆さんのご意見伺って、よろしいですか。一通りは皆さんにご意見をお伺いしました。

(山岸 清委員) くどいようだけれども、中間報告やって、最終報告すればいいのではないの、川又さん言ったように。

(二階堂武文委員長) 皆さんのご意見なんかですと、当初は終わってからというよりもエールの最終段階で市民、県民、一定エールを、今まで古関裕而の名前を知らない人が6か月間テレビを見ることによって、また全国的にも流れることによって一気に知名度もアップしてくると、終わる数週間前ぐらいに9月定例会議で盛り上がったところでの次に向けての報告を出してみてもというようなつながりで、ストーリーでこの間はお話があったかと思います。ただ、視察に行く中で、その視察結果も踏まえた上で、また先ほど阿部委員のほうからもちょっとお話ありましたが、具体的なスケジュールの問題とか何かを考えますと、やはり可能な範囲でというお話もありましたし、今高木委員のほうからできる部分だけでもというようなところでご意見も頂戴いたしました。小松委員、川又委員、山岸委員のほうからも同じような形でそういった方向でのご意見を頂戴しておりましたので、これは一旦そういう方向で預らせていただいて、正副のほうでもう一回ちょっとその辺を整理させていただいて、皆さんのほうにお諮りするということ……。

(小松良行委員) ちょっと今3人で外れて。

(二階堂武文委員長) ここで決めてしまったほうがいいですか。

(小松良行委員) ある程度方向性だけ決めて、というのは日程がもうないから、あと次回何日にやるかという話も当然するのだろうに。だから……。

(川又康彦委員) 委員会としては、除染関係で大分長い期間のときは中間報告みたいな形も取った記憶はあるのですが、通常の調査の段階で中間やって、その後報告みたいなのはあまり経験したことないのですけれども。

(小松良行委員) ないね。オリパラぐらいではない。特別委員会ぐらい。

(二階堂武文委員長) であれば、9月ではなくて6月あたりに3か月早めて一本でまとめていくという感じのほうが。

(小松良行委員) 俺はそれでいいのではないかと思うけれども。

(川又康彦委員) ほかの常任委員会に対しても何なのだ、ここはみたいなのでまた言われかねないのかなと。

(山岸 清委員) いや、いいのだよ。委員会は何やったっていいのだから、議会は。議会は何でもできるのだから。

(二階堂武文委員長) ただ、委員の皆さんなり事務局の作業時間も当然あるので。

(小松良行委員) 本当に終わってしまうと、これ視察行ってきてこんなこと聞いてきた……。

(書記) ちなみに、ほかの委員会の情報ですけれども、総務常任委員会のほうが6月になるか9月になるかまだ分からないというような状況で動いているようです。文教は9月ということで調整をしていると。建設水道は6月ということで、動いているようなので、4常任委員会それぞれ調査の流れやそういったものがある中で、必ずそろえなくてはいけないというわけではないですけれども、ほかの委員会も今のところ6月で報告としているのはそういう意味では建設水道だけで、あと文教については9月ということでお話しされているようです。総務もこれからの調査でちょっと延びるかもしれないというお話もしていましたので、そういう状況ではあります。なので、必ず6月ということでもないですし、9月ということでもないです。

あと、今のお話に出ました中間報告ですけれども、明確に調査テーマの中でそういったインフラ整備に関わる調査とか、そういった調査テーマを個別に設定して、これはここまでやりましょう、これはこの先やりましょうというふうに最初に設定していれば、中間報告という形でそこまでの報告ということで順序立ててやっていくということで、オリパラや除染なんかはそういった形でやっていたのかなと思います。現実的にこれから3月に中間報告というのはなかなか時間的にはかなり厳しい状況かなとは思いますが。委員長もおっしゃられていましたように、シンフォニーという実行計画に基づいて当局のほうで数多くの事業に取り組んでいる部分もありますし、そのなかで駐車場が足りないということも当局のほうでは重々承知しているようではございます。これからどういったところ、例えば競馬場がいいのかとか、いろんな議論をしているようではあります。なので、全く動いていないということではありませんので、そこは当局のほうも現状を踏まえて駐車場を確保しなければいけない、あとお土産のところも古関氏にちなんだお土産開発を当局で事業者に促して、ある程度の商品化も進んでおり、それらをしかるべき場所で販売をしていかななくてはいけないということは当局も重々分かっている中で、どこに売り場を確保するのがよいのか検討している状況であります。そういった当局の動きや予定も踏まえて、どこで何を提言するのがいいのかというのをもう一度ちょっとご確認いただいたほうがいいのかかなとは思いますが。

(二階堂武文委員長) ということは、もう一回議論続けたほうがいいのかということですか。やっぱりワークショップちょっと置いて、そういうふうにさせて……。

(川又康彦委員) もう一回これまでのスケジュールで委員長、副委員長、以前に頂いた資料から、9月だった際スケジュールで頂いたやつあったと思うのですけれども、それだと行政視察やって、2月中旬に意見開陳やって、4月に現地調査、5月と6月に参考人調査を2回やるようなイメージで多分9月という形だったと思うのですけれども、例えばそれが6月になった際に、現地調査は多分1回できるのかなど。当局説明が入るのか、参考人なのか分からないですけれども、それを1回ぐらい入れると6月というのは現実的にはできるのではないかなという気はするのですけれども。

(二階堂武文委員長) 先ほど委員長、副委員長のほうの案の案の説明ということでちょっと説明をさ

せていただきましたが、当局説明と、あと現地調査という2つを、あとは本当にまとめの作業ということで考えてはあったのですが。

(佐々木優委員) 当局説明をするにあたって例えば、それは当局の中身の事情の問題になると思いますが、人事異動があり、その後事業をちゃんとつないでいくためにその期間頑張ってくれると思うのですが、当局説明を受けるタイミングがどこにできるのかという問題とかも考慮しなければいけないかなというふうに思いますし、それから古関裕而ストリートの具合、どこまでで完成ですよというのは私もまだ確認していなかったのですが、そこを見に行くタイミングとかというのも早い段階でいいのか、早い段階からやっていなかったら駄目ですが、そこら辺も考慮して、では6月に間に合うようにというのであれば、それはそれでいいかなというふうに思うのですが、タイミングの問題とかですか、そしてまとめにかかる時間とかも考慮することが6月に提言するのであればよく考えなければいけないかなというふうに思うので、そこも皆さんと意見出してもらったらいかなと思うのですが。

(二階堂武文委員長) 事務局にちょっと確認ですが、6月に委員長報告をまとめるとすれば、今動き出したものの途中経過なりも例えば古関裕而記念館の改装されての反響の具合が一月、二月たった後どうなのかとかというのをスケジュールの中に、報告の中に組み込もうと思うと結構難しいですか。やってやれないことはない。再オープンはいつでしたっけ。

(石山波恵委員) 3月に工事ですよ、1回目が。

(二階堂武文委員長) でも、4月には再オープン。

(石山波恵委員) はい、3月中に工事して、4月にオープンです。

(二階堂武文委員長) 再オープンして、若干置いて状況を見るとか、ゴールデンウィーク後というのはちょっと厳しい。

(小松良行委員) あとは委員長、副委員長のほうで早めたらという意見が出たことも考慮して日程調整、かなうかどうかは現実的にもあるでしょうし、議会日程のこともあるでしょうから、ある程度今日はあと次回の日程だけ決めて、お残りいただいてちょっと可能かどうかいろいろと検討いただき、できれば6月前倒しというようなことの検討をいただけるように希望します。

(二階堂武文委員長) そんなところであれですか、一旦。

(川又康彦委員) これで日程的に正副と事務局のほうで話して、やっぱり無理だったということであればこれはしょうがない。

(書記) 6月提言ということであれば、おそらくまとめの作業に入るのは年度明けてすぐにやっていかないと難しいかと思います。ですので、そういった今委員長、副委員長からご提案のあった当局説明や現地調査というのは現実的にはちょっとできないかなとは思いますが、まとめに入っていく中で、そういった古関裕而記念館のリニューアルの現状であったり、実際受入れ体制が整備された部分を見ないまま、そこは入れずに委員長報告をするということであれば、4月からまとめに入って、6月に

提言ということは可能かと思いますが、委員の皆さんがその辺も見た上で、現状を把握した上でということであれば、当然調査の設定する期間も必要になってきますので、6月報告というのは厳しくなってくるかなと思います。実際4月にすぐ現地調査や当局説明ができるのかというふうになると、商観部はエールのほうの受入れに加えて花見山の対応とか、そういったのもやっておりますし、実際エールが始まって間もない4月の期間の中では、なかなか観光客の状況がどうなのかとか、そういった調査事項をぶつけても当局のほうでも多分回答はできないと思います。

(山岸 清委員) 今から言うておくのさ、宿題に。あんなの簡単でしょう。何人入ったかなんて。頭使う問題でないよ。カチャカチャやればいいのだから。

(書記) 3月から4月上旬ぐらいまでの、そういう短い期間の中での受入れ状況というような確認のみにはなってしまう。

(山岸 清委員) だから、できないことは言わないのだから、できることをやることなのだ。毎日何人入っているかなんて毎日分かっているよ。それこそ飯食わないでやっているわけでないのだよ。

(二階堂武文委員長) 私どもの提言というのは、当局のアクションプランで今動き出そうとしている、一部動いている。ただ、4月以降の現実の状況が生まれたときにいろんなギャップが出てくると。それを踏まえた形での提言をすれば、すごく現実的な市政に役立つような提言ということになっていくと思うのです。だから、そこを現実を見た上での……。

(山岸 清委員) 考え方が違うのだ、そもそも。ギャップをなるだけ出さないように、こういうことも考えているのだけれども、議会の立場で言うておかなかつたら俺ら何にも考えていなかったかと言われてしまうよ、市民から。

(二階堂武文委員長) この間いろいろ昨年度当局といろいろ意見交換というか、説明させていただいたり、意見交換をさせていただいたりする中で、委員会としてもご意見なり質問なりいろいろ言わせていただいてきたというのは経緯はありますので。

(山岸 清委員) だから、それをするのが委員会の報告でしょう。口頭で言うていけば大丈夫ならば、何も委員長報告なんてやることないのだよ。委員会で聞いていたでしょうで終わりだよ。だから、委員長報告というのは委員会でこういうことを考えてこうしました、当局の方努力してください、あるいはこういう点はどうですかという提言というか、そんなものだよ。質問ではないのだから。だから、それでさっきも俺言ったけれども、当局でこれは書かれると困るのですというのあったら削ればいいのかよ。何もこっちは当局の邪魔しようとしているのではないのだから。できれば後押ししてやろうということ。だから、逆に財務部と折衝して、議会からもこれは強く押されているから、何とかなんてやりやすくなるのだよ。

(石山波恵委員) やはりそれぞれのいろいろ思いと、あと現状の物理的なものとかもあると思うので、一旦やはり委員会としてどこまでの提言、どこまでの報告を出すというところ、だからその途中段階でまずという、それで終わって次のところに行くのか、それともやはりエール始まったらいろいろし

て、全て見ながら最終的なことにつながっていくのかという提言のところを同じところでいって、それが可能だったら物理的なもの等を加味して、あとは委員長、副委員長で決めていただく。結局発表したりやるのは委員長なので。その部分のところを加味していただいて決めていただくほうがいいのではないのでしょうか。私たちが6月はいいとかと言っても、実際的に異動あったり云々で、そこまでの途中まででいいよと言う人もいるかもしれないけれども、でもやはり最終的なまとめで委員長がやりたいというのだったら、それをみんなに言って、あと物理的にこうだからということで進めていって、前に行くほうがいいのではないのでしょうか。どうでしょうか。

(川又康彦委員) 私もそう。

(石山波恵委員) そのほうがいいと思いますけれども。

(川又康彦委員) あとは委員長と副委員長にお任せして、6月なら6月、9月なら9月ということで、あとは委員はそれぞれ従いますということでどうですか。

(山岸 清委員) いいよ。

(小松良行委員) いいよ。

(二階堂武文委員長) そういったことでまとめていただきましてありがとうございます。

では、そういった方向で、とにかく委員の皆さんの力を結集していいものを報告を作っていければと思いますから、引き続きよろしくをお願いします。

では、こちらでもう一度もんでということで。

今日は以上で……。

(石山波恵委員) 次回。

(二階堂武文委員長) 次回の……。

(書記) 定例会議中に1度できればいいのかなんては思っているのですが、委員会審査がありますので、その中でちょっと時間を取っていただいてということで、また定例会議の委員会審査に入る初日あたり、いついつぐらいにというようなお話を……。

(石山波恵委員) 16ですか、そうすると。

(小松良行委員) 分からない。その日に決める。

(書記) 16日にまた委員長のほうから何日あたりにお残りいただいてということでお話をさせていただければ。

(二階堂武文委員長) では、お時間を頂戴してしまいましたが、本日の議題以上となります。

これでなければ経済民生常任委員会を終了したいと思います。本日はいろいろとありがとうございました。

午後4時11分 散 会

経済民生常任委員長 二階堂 武文